

# 十種祓詞

高天原に神留り坐す 皇親神漏岐 神漏美の命以ち  
 て皇神等の鑄顯はし給ふ 十種の瑞寶を饒速日命に  
 授け給ひ 天つ御祖神は言誨へ詔り給はく 汝命こ  
 の瑞寶を以ちて 豊葦原の中國に天降り坐して 御

倉棚に鎮め置て 蒼生の病疾の事あらば 茲の十種  
 の瑞寶を以ちて 一二三四五六七八九十と唱へつつ  
 布瑠部 由良由良と布瑠部 かく爲しては 死人も生  
 反らむと 言誨へ給ひし随まに 饒速日命は天磐船  
 に乗りて 河内國の河上の 哮峯に天降り坐し給ひし  
 を爾の後大和國山邊郡布留の高庭なる 石上神宮に  
 遷し鎮め齋き奉り 代代其が瑞寶の御教言を蒼生の

爲に 布瑠部の神辭と仕へ奉れり 故この瑞寶とは  
 瀛津鏡 邊津鏡 八握劍 生玉 足玉 死反玉 道反  
 玉 蛇比禮 蜂比禮 品物比禮の十種を布留御魂神  
 と尊み敬まひ齋き奉ることの由縁を 平けく安らけ  
 く聞こし食して 蒼生の上に罹れる災害及諸の病疾  
 をも 布留比除け祓ひ却り給ひ 壽命長く伊加志八  
 桑枝の如く立榮えしめ常磐に堅磐に守り幸へ給へと  
 恐み恐みも白す

# ひふみ祓詞

ひふみよいむなやこともちろらねしきるゆるつわぬそ  
 をたはくめかうおゑにさりへてのますあせえほれけ